

分野：⑫消費生活・衣食住

(食品ロス)

環境アドバイザー

関川 忠彦

対象 行田市立太田西小学校 5年1組 (39人)

所要時間  1時間

場所 校舎内 家庭科室 2F

実施時期

令和3年10月27日

概要

- 1 初めて環境学習。事前打合せで、テレビで見る「食品ロス」の実態を知ったり、身近なことから世界の状況を学習したい。
- 2 日本の各家庭などの状況から食品ロスを実感しにくいので、世界の話題、実態から共通認識を持たせ、気づいたことで今後の対応を考える
- 3 知らないことを知った喜びと考えることの楽しさを習得させたい

プログラムの ねらい

総合の時間に、他の教科と関連する食べ物・食品ロスについて、知って考える。日本と世界の問題、特に食糧自給率の低さと食品ロスの多さを知り、飢餓に苦しんでいる人が世界に多数いることから、私たちができることを考える。学校の食品ロスの指導計画に役立つ資料・情報を提供する(テキスト内容を)市報ぎょうだの「食品ロス」の特集を解説し、身近な話題と認識させる。

プログラムの内容

1 イン트로 (5分)

「今日は何の日」クイズから入り、10月は「食品ロス削減月間」を知る。

2 本題 (35分)

- 2.1 日本人の昔と今の食生活の変化、食材を多量に輸入する日本、食料自給率などを知る。
- 2.2 日本の低い自給率を知り、もし輸入できなくなった時の食事・献立を知り感じる。
- 2.3 きゅうりなど旬の食べ物が今は一年中食べられる日本。食品不足の心配がないかを考える。
- 2.4 食べ物がゴミとしてたくさん捨てられている日本の実態を知る。その重量を実感する。
- 2.5 世界で約8億人ものが、食べ物と栄養不足の悪循環で飢餓状態なのに多量の食料が捨てられている。世界の飢餓の実態写真を見てそのひどさから**食料の大切さ**を知る。
- 2.6 日本の家庭からの食品ロスの内容を知り、埼玉県や行田市の動きも知って、できる事から行動して食品ロスを出さないライフスタイルをする(買い物、調理、外食などで)。
- 2.7 簡単な実践クイズ「買い物の時、皆さんはどうする？」で、できる事から食品ロスの削減を開始しよう。買い物や調理をすることで食品ロスとその削減を体験しよう。

3 まとめ (5分)

- 3.1 世界で食料不足で苦しんでいる人がいるのに、多量の食料がロスに→世界の实態を知る。
- 3.2 私たちはできることからやる。食べ物のムダや偏食はしない、買い物や調理をしてみる。
- 3.3 子供の時の一日3食と特に朝食はなぜ大切かを知る。

受講者の反応

1 担任先生より

- 1.1 食品ロスは、学校課題研修のキーワードなので、具体的な取り組みや話が聞けてありがたい。
- 1.2 パワーポイントを使ったわかり易い説明だった。その資料をもらっているので活用できる。
- 1.3 事前打合せで丁寧な説明があり、当日の準備・運営までスムーズにできた。
- 1.4 学校の要望に合った食品ロスの話が幅広くあって助かる。後日の復習にも使える。
- 1.5 資料・話題が豊富過ぎるので、ポイントを絞って話をした方が子供たちは集中できる。

2 講師の感想

- 2.1 話しを聞くだけでは飽きてしまった子供がいた。動画があれば集中力も続くのでは。
- 2.2 学習内容の画面は担任に一式渡してあるので、後日のQAや復習に役立つとのこと。
- 2.3 学校の授業内容に関係付けした構成で、説明画面の資料が後日授業にも使える。

環境学習の様子（写真）



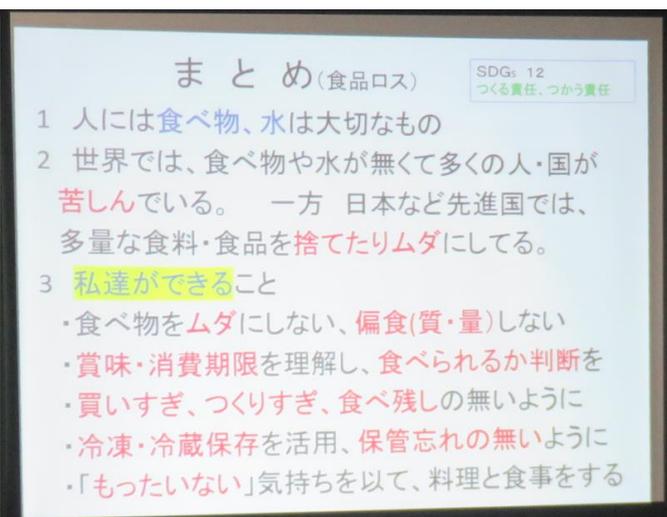
昔と今の一般家庭の食べ物比較



食料自給率



もし食料の輸入が止まったら！



まとめ